

目次

1	はじめに	1
2	研究業績	2
(1)	原著・報告	2
(2)	解説	5
(3)	著書	5
(4)	報告書	5
(5)	シンポジウム・セミナー等	6
(6)	学会発表	7
(7)	講演等	14
(8)	その他	16
(9)	受賞	17
(10)	国際交流	17
3	研究活動	18
(1)	地域看護学勉強会	18
(2)	研究会	21
(3)	研究プロジェクト	22
(4)	教室内勉強会	24
4	教育活動	26
(1)	学部講義	26
(2)	学部実習	28
(3)	大学院特論	29
(4)	大学院実習	36
(5)	活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム 大学院講 義	36
(6)	卒業論文	36
(7)	修士論文	36
(8)	博士論文	37
5	学内での活動	38
(1)	委員会活動	38
(2)	看護系教室役割分担	38
(3)	教室内での役割分担	38
6	学会における活動	39
7	社会的活動	41
8	教室日誌	42
9	教室員名簿(2016年度)	43

1 はじめに

東京大学大学院医学系研究科の地域看護学教室は、平成 4 年の開設から 25 年目を迎えます。これまで、初代金川克子教授に始まり、村嶋幸代教授、永田智子准教授が教室を導いてこられました。多くの修了生が研究・教育機関、行政や医療機関などで活躍しています。これまで、教室の基礎を築き、発展させてくださいました先生方、先輩方、ご支援くださった方々に、改めて厚く御礼申し上げます。

平成 28 年度 7 月には、成瀬昂が講師に昇任しました。8 月には、平成 26 年から開始された保健師修士課程教育を開拓・支えてきた蔭山正子助教が転任されました。そして平成 29 年 3 月には、これまで 10 年以上にわたり教室を支えてきた永田智子准教授が転任されました。このように、大変動きの多い年でありましたが、平成 29 年 3 月には無事、博士課程 2 名、修士課程 4 名、卒論生 2 名が修了することができました。皆様のご支援のおかげと、心より感謝申し上げます。

この 4 月からは、高齢者在宅長期ケア看護学教室の山本則子教授に教室主任を兼担していただいております。現在は、講師 1 名、助教 1 名、特任助教 1 名、博士課程学生 5 名、修士課程学生 6 名、留学派遣研究生 1 名で、日々勉学に、研究に励んでおります。平成 26 年度から開始した保健師の大学院教育も、今年で 4 年目となりました。所属員一同、公衆衛生看護・地域看護の実践者が持つ様々なワザを、学び、記述し、可視化し、体系化し、そして学ぶことを通して、学問構築に貢献してまいりたいと考えております。そのために、教室内では、各自の研究課題にとどまらず、教員・学生の立場にかかわることなく、互いの意見を聞き、尊重した上で、自立した研究者マインドに基づいて議論できる習慣を大切にしたいと考えています。

ここに纏めました平成 28 年度の活動報告をご高覧いただき、ご助言、ご指導を賜れば幸いです。教室員一同、今後も研究と教育に邁進していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻の程、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

2017 年 4 月

東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻
地域看護学分野 講師 成瀬昂

2 研究業績

(1) 原著・報告

Takashi Naruse, Mahiro Fujisaki-Sakai, Satoko Nagata.

Home visiting nurse service duration and factors related to institution admission.

Home Health Care Management & Practice, 29(1), 46-52, 2017.

Takashi Naruse, Hiroshige Matsumoto, Natsuki Yamamoto, Satoko Nagata.

Association between Geographic Accessibility of Home Care Clinics and Hospitalization in Japan using Geographic Information Systems and Insurance Claim Data.

Health, DOI:10.4236/health.2016.810102, 2016.

Masako Kageyama, Phyllis Solomon, Sachiko Kita, Satoko Nagata, Keiko Yokoyama, Yukako Nakamura, Sayaka Kobayashi, Chiyo Fujii.

Factors Related to Physical Violence Experienced by Parents of Persons with Schizophrenia in Japan.

Psychiatry Research, 243, 439-445, 2016.

Masako Kageyama, Taeko Shimazu, Atsuko Taguchi, Satoko Nagata, Kathy Magilvy.

Use of Analogy by Public Health Nurses in Problem Solving for Individual Consultations in Japan: A Multiple Case Study.

Open Journal of Nursing, 7, 345-360, 2017.

Masako Kageyama, Yukako Nakamura, Sayaka Kobayashi, Keiko Yokoyama.

Validity and reliability of the Family Empowerment Scale for caregivers of adults with mental health issues.

Journal of Psychiatric and Mental Health Nursing, DOI: 10.1111/jpm.12333, 2016.

Mahiro Sakai, Takashi Naruse, Satoko Nagata.

Relational coordination among home healthcare professions and goal attainment in nursing care.

Japan Journal of Nursing Sciences, 13(3), 402-410, 2016.

Mahiro Sakai, Takashi Naruse, Satoko Nagata.

Relational coordination between professionals predicts satisfaction with home visit nursing care.

Clinical Nursing Studies, 4(1), 1-5, 2016.

Natsuki Yamamoto, Takashi Naruse, Mahiro Sakai, Satoko Nagata.

The Relationship between Maternal Mindfulness and Anxiety One Month after Childbirth in Japan.

Japan Journal of Nursing Science, DOI: 10.1111/jjns.12157, 2016.

Natsuki Yamamoto, Chikako Honda, Satoko Nagata.

Current trends and age-based differences of unintentional injury in Japanese children. Bioscience trends, 10(2), 152-157, 2016.

Chika Tanaka, Takashi Naruse, Atsuko Taguchi, Satoko Nagata, Azusa Arimoto, Yuki Ohashi, Sachiyo Murashma.

Conformity to the neighborhood modifies the association between recreational walking and social norms among middle-aged Japanese people.

Japan Journal of Nursing Sciences, 13(4), 451-465, 2016.

Takuma Kimura, Satoru Yoshie, Rumiko Tsuchiya, Syohei Kawagoe, Satoshi Hirahara, Katsuya Iijima, Toru Akahoshi, Tetsuo Tsuji.

Catheter replacement structure in home medical care settings and regional characteristics in Tokyo and three adjoining prefectures.

Geriatrics & Gerontology International, DOI: 10.1111/ggi.12769, 2016.

Takashi Naruse, Natsuki Yamamoto, Takashi Sugimoto, Mahiro Fujisaki-Sakai, Satoko Nagata.

Association between nurses' relational coordination with physicians and clients' place of death in home visiting nursing facilities.

International Journal of Palliative Nursing, 2017 (in printing).

Aya Saitoh, Akihiko Saitoh, Isamu Sato, Tomohiro Shinozaki, Hajime Kamiya, Satoko Nagata.

Effect of Stepwise Perinatal Immunization Education: A Cluster-randomized Controlled Trial.

Vaccine, 2017 (in printing).

蔭山正子, 小林清香, 横山恵子, 中村由嘉子.

精神科病院での「家族による家族学習会」実施がもたらした家族と精神保健福祉士のパートナーシップ：インタビュー内容の質的記述的分析.

精神障害者リハビリテーション, 20(2), 177-183, 2016.

蔭山正子, 横山恵子, 小林清香, 中村由嘉子.
家族ピア教育プログラムの精神科病院での採用と継続に関連する要因の検討：ケーススタディ.
日本公衆衛生雑誌, 63(10), 627-636, 2016.

阪井万裕, 成瀬昂, 永田智子.
訪問看護師における職種間連携のしやすさに関連する職場環境要因の明確化.
保健医療福祉連携, 9(2), 157-165, 2016.

錦織梨紗, 永田智子, 水井翠, 戸村ひかり.
病棟看護師が担う退院支援係の配置の有無と病院の特徴および退院支援への取り組み状況との関係.
日本地域看護学会誌, 19(1), 72-79, 2016.

野海直子, 蔭山正子.
精神疾患を発症した子をもつ中年期の親の経験—家族ピア活動に参加した親の経験を踏まえた支援のあり方—.
日本精神保健看護学会誌, 25(2), 41-50, 2016.

二宮史織, 中村由嘉子, 蔭山正子, 横山恵子, 桶谷肇, 小林清香, 大島巖.
精神障害者の家族ピア教育プログラム（家族による家族学習会）が家族のエンパワメントに与える効果～プログラム実施者と受講者の効果の比較～.
精神医学, 58(3), 199-207, 2016.

本田千可子, 永田智子.
家の中でおこる子どもの不慮の事故による傷害の関連要因についての検討～子どもの生活習慣との関連を中心に～.
医療の広場, 57(3), 2017（印刷中）.

錦織梨紗, 永田智子.
外来看護師による在宅療養支援ニーズ把握の実際.
日本地域看護学会誌, 20(2), 2017（印刷中）.

戸村ひかり, 永田智子, 清水準一.
退院支援の実践状況と退院支援に関するシステム整備の関連要因の明確化.
日本在宅看護学会誌, 5(2), 2017（印刷中）.

(2) 解説

永田智子.

患者が納得できる療養生活を支えるには。
看護, 69 (2), 89-91, 2017.

蔭山正子, 永田智子.

研究的思考・手法を実践に活用する能力を養う、東京大学大学院修士課程における保健師実習。

保健師ジャーナル, 72(6), 450-455, 2016.

大橋由基, 新村津代子, 有本梓, 渡井いずみ, 成瀬昂, 田口敦子, 永田智子, 村嶋 幸代。

修士課程保健師コースにおける生活習慣病予防を目的とした地域診断・活動展開実習の事例 山間部の高塩分食・喫茶店のモーニング文化と保健師活動。

保健師ジャーナル, 72(11), 946-952, 2016.

(3) 著書

河野あゆみ, 永田智子 (編著) .

在宅看護論。

東京：放送大学教育振興会, 2017.

永田智子 (分担執筆) .

シンプル衛生公衆衛生学 2017 (監修 鈴木庄亮) . 東京：南江堂, 2017.

7-1 地域社会と地域保健. 211-215.

(4) 報告書

堀田聡子, 山岸暁美, 野口麻衣子, 成瀬昂.

平成 28 年度厚生労働科学研究費補助金 (地域医療基盤開発推進研究事業) .

統合ケアを指向した効果的・効率的なサービスモデルに関する研究。

平成 28 年度総括研究報告書, 2017.

(5) シンポジウム・セミナー等

永田智子，田口敦子，鷺見尚己，戸村ひかり。

ワークショップ 外来からの在宅療養支援：現状と展望。

第19回日本地域看護学会学術集会，栃木県 自治医科大学，2016年8月26日-27日。

蔭山正子（座長），小山公一郎，小山美枝子，横山恵子，飯塚壽美，岡田久実子，佐藤美樹子。

家族への暴力から見つめる精神医療と地域支援。

リハビリ全国フォーラム2016 分科会，東京都 帝京平成大学池袋キャンパス・本館，2016年8月26日。

横山恵子（座長），蔭山正子。

精神障害を持つ親のもとで育つ子どもへの支援とリハビリ。

リハビリ全国フォーラム2016 分科会，東京都 帝京平成大学池袋キャンパス・本館，2016年8月27日。

Hiroshige Matsumoto.

The use of a socialization place by senior citizens in Japan.

The 3rd IARU Aging, Longevity and Health Graduate Student Conference. Tokyo, Japan. November 3-5, 2016.

五十嵐歩，松本博成，青木伸吾，油山敬子，安井英人，鈴木美穂，村田聡，佐瀬満雄，濱田貴之，山本則子。

高齢者支援におけるコンビニエンスストアとの協働モデルの構築：地域包括ケアにおける age-friendly community を目指した community-based participatory research.

日本情報処理学会 高齢社会デザイン研究会，東京 東京大学，2016年11月12日。

松本博成，五十嵐歩，鈴木美穂，油山敬子，青木伸吾，安井英人，山本 則子。

コンビニエンスストアの近接性が買い物行動の自立に与える影響。

CSIS DAYS 2016，千葉県 フューチャーセンター（東京大学・柏の葉キャンパス駅前サテライト），2016年11月17日-18日。

村嶋幸代, 赤星琴美, 佐伯和子, 平野美千代, 高橋香子, 永田智子, 蔭山正子, 二宮一枝, 佐藤玉枝.

ワークショップ「大学院修士課程教育で育成する保健師像と目指す能力」.
第5回日本公衆衛生看護学会学術集会, 宮城県 仙台国際センター, 2017年1月21日-22日.

(6) 学会発表

寺本千恵, 中島勸, 園生智弘, 岩井聡, 永田智子.

救急外来に年間5回以上の受診を繰り返す患者の特徴: 後ろ向きチャートレビュー.

第19回日本臨床救急医学会学術集会, 福島県 ビッグパレットふくしま, 2016年5月12日-14日.

飯坂真司, 永田智子, 真田弘美.

地域在住高齢者のフレイル・サルコペニアと介護予防活動参加の関連.

第58回日本老年医学会学術集会, 石川県 石川県立音楽堂, 2016年6月8日-10日.

石崎達郎, 寺本千恵, 光武誠吾, 清水沙友里, 井藤英喜.

東京都の後期高齢者における在宅医療患者数の推計.

第58回日本老年医学会学術集会, 石川県 石川県立音楽堂, 2016年6月8日-10日.

五十嵐歩, 松本博成, 油山敬子, 鈴木美穂, 青木伸吾, 安井英人, 孫大輔, 城島華子, 山本則子.

在宅認知症高齢者のコンビニエンスストア利用に関する1事例の検討: 地域包括ケアにおける協働の推進に向けて.

第58回日本老年医学会学術集会, 石川県 石川県立音楽堂, 2016年6月8日-10日.

松本博成, 五十嵐歩, 油山敬子, 鈴木美穂, 青木伸吾, 安井英人, 孫大輔, 城島華子, 山本則子.

コンビニエンスストアとスーパーマーケットの近接性が買い物行動の自立に与える影響 ~地域包括ケアにおける協働の推進に向けて~.

第58回日本老年社会科学学会学術集会, 愛媛県 松山大学, 2016年6月11日-12日.

Satoko Nagata, Risa Nishikoori, Naomi Sumi, Atsuko Taguchi, Hikari Tomura.

Screening of home care needs for outpatients among general hospitals in Japan: A nationwide study.

The 3rd KOREA-JAPAN Joint Conference on Community Health Nursing (KJJCCHN), Bexco Convention Center, Busan, Republic of Korea, July 1-3, 2016.

Chikako Honda, Natsuki Yamamoto, Rumiko Tsuchiya, Ayako Kawakami, Satoko Nagata.
Home safety practices to prevent child injury and its association with daily routines for child.

The 3rd KOREA-JAPAN Joint Conference on Community Health Nursing (KJJCCHN), Bexco Convention Center, Busan, Republic of Korea, July 1-3, 2016.

横山恵子, 蔭山正子.

未治療の統合失調症の母親を持つ子どもの体験—40代女性3人へのインタビューから—.

日本精神保健看護学会第26回学術集会, 滋賀県 びわ湖ホール/ピアザ淡海, 2016年7月2日-3日.

前川厚子, 熊崎裕崇, 佐藤アイ子, 黒柳いつ子, 谷口由美子, 中村千香子.

摘便シミュレーションモデルを用いた排便ケア技術の検証.

第3回日本在宅褥瘡創傷ケア推進協会総会・学術集会, 東京都 ヒューリックホール, 2016年7月2日-3日.

松本佳子, 吉江悟, 土屋瑠見子, 川越正平, 平原佐斗司, 山中崇, 飯島勝矢, 辻哲夫.

在宅医療多職種連携研修会受講者の在宅医療への意識および連携活動の変化:職種別の検討.

第18回在宅医学会大会, 東京都 東京ビッグサイト TFTビル, 2016年7月16日-17日.

戸村ひかり, 永田智子.

効果的な病院の退院支援システムを整備するための要素の明確化—先駆的に退院支援システムを整備する病院のヒアリング調査より—.

第21回日本看護管理学会学術集会, 神奈川県 パシフィコ横浜, 2016年8月19日-20日.

前田明里, 加藤たか子, 蔭山正子, 永田智子.

精神障害者のサービス等利用計画作成数増加に向けた1自治体の取り組み—アクションリサーチの手法を用いて—.

第19回日本地域看護学会学術集会, 栃木県 自治医科大学, 2016年8月26日-27日.

松下はるゑ, 成瀬昂, 山本なつ紀, 松本博成, 永田智子.

介護老人福祉施設の職員と入所者の間の会話時間に関連する要因.

第19回日本地域看護学会学術集会, 栃木県 自治医科大学, 2016年8月26日-27日.

田口敦子, 佐藤日菜, 浦山美輪, 山内悦子, 深谷真理子, 永田智子, 戸村ひかり, 鷺見尚己.

特定機能病院に勤務する外来看護師による在宅療養支援の実態(第1報)—ヒアリング調査による支援内容の明確化—.

第19回日本地域看護学会学術集会, 栃木県 自治医科大学, 2016年8月26日-27日.

佐藤日菜, 浦山美輪, 山内悦子, 深谷真理子, 田口敦子, 永田智子, 戸村ひかり, 鷺見尚己.

特定機能病院に勤務する外来看護師による在宅療養支援の実態(第2報)—質問紙調査による支援状況の明確化—.

第19回日本地域看護学会学術集会, 栃木県 自治医科大学, 2016年8月26日-27日.

藤崎(阪井)万裕.

訪問看護サービスの利用者毎に受け持ち訪問看護師が評価した, 連携のしやすさと利用者へのケアにおける目標達成度との関連.

第2回日本混合研究法学会年次大会, 東京都 東邦大学, 2016年8月27日-28日.

Mahiro Fujisaki-Sakai, Takashi Naruse, Satoko Nagata.

Classification of nursing goals for caring clients using home-visit nursing services.

ICCHNR(International Collaboration for Community Health Nursing Research) SYMPOSIUM 2016, University of Kent, Canterbury, UK, September 15-16, 2016.

Natsuki Yamamoto, Chikako Honda, Satoko Nagata.

Current trends and age-based differences of child unintentional injury in Japan.

ICCHNR(International Collaboration for Community Health Nursing Research)
SYMPOSIUM 2016, University of Kent, Canterbury, UK, September 15-16, 2016.

Fumika Horinuki, Yuka Sumikawa, Minami Sugimoto, Rumiko Tsuchiya, Ryogo Ogino,
Hyosook Park, Naoko Mikoshiba, Satoko Nagata.

Factor of Facilitation Using Tool of Advance Directive: Evaluation from Elderly
Perspective.

2016 GSA(The Geological Society of America), Denver, the United States of America,
September 25-28, 2016.

角川由香.

「時々入院、ほぼ在宅」に向けて～急性期病院に入院した高齢者に対する退院支援を通しての一考察～.

第 23 回多文化間精神医学会学術総会, 栃木県 栃木県総合文化センター, 2016
年 10 月 1 日-2 日.

今枝秀二郎, 田中友規, 谷口紗貴子, キム・ギョンミン, 松本博成, 内山瑛美子,
西野亜希子, 孫輔卿, 三浦貴大, 飯島勝矢, 田中敏明, 大月敏雄, 西出和彦,
大方潤一郎.

横浜市における高齢者の転倒事例に基づく地域居住を継続するための環境要因の
究明.

第 3 回日本転倒予防学会, 愛知県 ウィンク愛知, 2016 年 10 月 1 日-2 日.

田中友規, 今枝秀二郎, 谷口紗貴子, 金晃敏, 松本博成, 内山瑛美子, 西野亜希子,
孫輔卿, 三浦貴大, 大月敏雄, 西出和彦, 田中敏明, 飯島勝矢, 大方潤一
郎.

都市部・都市郊外部に住む中高齢者における住居内転倒状況と関連する内的要
因・外的要因の検討.

第 3 回日本転倒予防学会, 愛知県 ウィンク愛知, 2016 年 10 月 1 日-2 日.

Takahiro Miura, Taichi Goto, Kazuki Kaneko, Yuka Sumikawa, Ayako Ishii, Mio Doke, Keita Suzuki, Taiyu Okatani, Akihiro Kubota, Mingzhen Zhang, Yuki Kinoshita, Hazuki Yoshinaga, Masahiro Tsuruta, Yuri Kominami, Misato Nihei, Takenobu Inoue, Minoru Kamata, Junichiro Okata.

Need and impressions of communication robots for seniors with slight physical and cognitive disabilities: Evaluation using system usability scale.

SMC 2016 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics, Budapest, Hungary, October 9-12, 2016.

本田千可子, 成瀬昂, 山本なつ紀, 永田智子.

1歳6か月児及び3歳児の親の事故予防行動と子供の性別の関連.

第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪府 グランフロント大阪, 2016年10月26日-28日.

中村友亮, 成瀬昂, 松本博成, 永田智子.

訪問看護事業所の近隣高齢者人口と訪問効率の関連: 横断研究.

第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪府 グランフロント大阪, 2016年10月26日-28日.

城内愛, 岩田侑里香, 内村利恵.

統合失調症患者及び家族と保健師が信頼関係を築くプロセスにおける効果的な工夫.

第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪府 グランフロント大阪, 2016年10月26日-28日.

飯坂真司, 永田智子.

地域在住高齢者の生活空間の狭小化と閉じこもりに関連する要因の相違.

第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪府 グランフロント大阪, 2016年10月26日-28日.

光武誠吾, 石崎達郎, 寺本千恵.

後期高齢者を対象とする健康診査の受診者における服薬治療者の検査値の分布.

第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪府 グランフロント大阪, 2016年10月26日-28日.

Yuka Sumikawa, Ayako Kawakami, Chie Teramoto, Shinji Iizaka, Masako Kageyama, Takashi Naruse, Satoko Nagata.

Can the Minnesota Intervention Wheel explain public health nursing practices in Japan?
APHA (American Public Health Association) 2016 , Denver, the United States of America,
October 29-November 2, 2016.

Kyo Takahashi, Tomoki Tanaka, Unyaporn Suthutvoravut, Yasuyo Yoshizawa, Mahiro Fujisaki, Masahiro Akishita, Katsuya Iijima.

Is frailty associated with constipation among community-dwelling older adults?
2nd Asian Conference for Frailty and Sarcopenia, Imaike gas building, Nagoya, Japan,
November 4-5, 2016.

Tomoki Tanaka, Kyo Takahashi, Unyaporn Suthutvoravut, Yasuyo Yoshizawa, Mahiro Fujisaki, Masahiro Akishita, Katsuya Iijima.

Predictive validity of the Kihon Checklist for onset of frailty in Japanese community-dwelling older adults.
2nd Asian Conference for Frailty and Sarcopenia, Imaike gas building, Nagoya, Japan,
November 4-5, 2016.

Nobutada Yokouchi, Fumika Horinuki, Hiroko Okada, Yuka Sumikawa, Makoto Suto, Chie Fukui, Ryogo Ogino, Hyosook Park, Mahiro Fujisaki, Satoko Nagata, Norio Higuchi, Jun Goto.

Practice for supporting the decision-making of the persons with dementia: A field study of “Dementia cafe”.
The 3rd IARU International Alliance of Research Universities Aging, Longevity and Health Initiative Graduate Student Conference, Tokyo, Japan, November 4-5, 2016.

Ren Komatsu, Nana Shinozaki, Satomi Nukina, Hisashi Moriizumi, Atsuhito Yasuhara, Ningjia Yang, Mingzhen Zhang, Kazuki Kaneko, Akihiro Kubota, Yoshiyuki Nakagawa, Ziaratnia Sayyed Ali, Hazuki Yoshinaga, Mio Doke, Taichi Goto, Chand Krishant, Ayako Ishii, Yuka Sumikawa, Yukihiro Tsuruta, Taiyu Okatani, Yuki Kinoshita, Keita Suzuki, Shoma Arita, Yuri Kominami, Rumiko Tsuchiya, Takahiro Miura, Akiko Nishino, Atsushi Hiyama, Katsuya Iijima, Toshiaki Tanaka, Junichiro Okata.

Needs assessments of support robots for elderly people with mild physical or cognitive impairment.
The 3rd IARU International Alliance of Research Universities Aging, Longevity and Health Initiative Graduate Student Conference, Tokyo, Japan, November 4-5, 2016.

藤崎万裕, 高橋競, 田中友規, Unyaporn Suthutvoravut, 吉澤裕世, 飯島勝矢.
市民フレイル予防サポーターにおける人材育成・指導活動への参加意向と関連要因.

第3回日本フレイル・サルコペニア研究会研究発表会. 愛知県 今池ガスビル,
2016年11月6日.

吉澤裕世, 田中友規, 高橋競, 藤崎万裕, Suthutvoravut Unyaporn, 飯島勝矢.
生活圏域別におけるフレイル出現および社会資源との関連.

第3回日本フレイル・サルコペニア研究会研究発表会. 愛知県 今池ガスビル,
2016年11月6日.

Hiroshige Matsumoto, Takashi Naruse, Sachiko Ono, Kojiro Morita, Hayato Yamana,
Hiroki Matsui, Hideo Yasunaga, Satoko Nagata.

Lifetime Probabilities of Adult Day Care Utilization in Japan.

The 7th APRU Research Symposium on Ageing in the Asia-Pacific, Beijing, China.
November 7-8, 2016.

Hiroshige Matsumoto, Masako Kageyama, Noriko Yamamoto-Mitani, Satoko Nagata.

An ethnographic study on older person's regular use of a socialization place in the suburb
of Tokyo.

2016 GSA (the Gerontological Society of America) Annual Scientific Meeting, New
Orleans, Louisiana, the United States of America, November 16-20, 2016.

Fumika Horinuki, Yuka Sumikawa, Minami Sugimoto, Rumiko Tsuchiya, Ryogo Ogino,
Hyosook Park, Naoko Mikoshiba, Satoko Nagata.

Factor of Facilitation for Using Tool of Advance Directive: Evaluation from Elderly
Perspective.

2016 GSA (the Gerontological Society of America) Annual Scientific Meeting, New
Orleans, Louisiana, the United States of America, November 16-20, 2016.

Mayo Kondo, Masayo Matsuzaki, Hiroki Yanase, Takashi Naruse, Satoko Nagata,
Kaori Yonezawa, Megumi Haruna.

Factors related to the discrepancy between planned number and desired number of children
among married people at Bunkyo-City in Tokyo, Japan.

第37回日本看護科学学会学術集会, 宮城県 仙台国際センター, 2016年12月16
日-17日.

永田智子，蔭山正子，成瀬昂，藤崎万裕。

大学院保健師教育における地域診断教育の内容と振り返り。

第5回日本公衆衛生看護学会学術集会，宮城県 仙台国際センター，2017年1月21日-22日。

岩崎りほ，蔭山正子，永田智子。

市町村保健師の職業的アイデンティティの構造。

第5回日本公衆衛生看護学会学術集会，宮城県 仙台国際センター，2017年1月21日-22日。

田中友規，高橋競，Suthutvoravut Unyaporn，吉澤裕世，藤崎万裕，秋下雅弘，飯島勝矢。

身体計測を用いたサルコペニア新規発症リスクの簡易評価—千葉県柏市在住高齢者におけるコホート研究より—。

第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会。岡山県 岡山シンフォニーホール，2017年2月23日-24日。

(7) 講演等

蔭山正子（講師）。

精神障害者の家庭で起きる暴力。

第34回こんぼ亭 みんなで考えたい。

東京都 東部フレンドホール，2016年4月23日。

蔭山正子（講師）。

大学院修士課程公衆衛生看護学特論Ⅰ「公衆衛生看護領域のグループ支援の研究の動向と実際」。

東京都 聖路加国際大学，2016年5月11日。

永田智子（講師）。

復興デザイン学「復興デザインと地域看護」。

東京都 東京大学工学部1号館，2016年5月23日。

藤崎万裕（講師）。

訪問看護サービスの利用者毎に受け持ち訪問看護師が評価した，連携のしやすさと利用者へのケアにおける目標達成度との関連。

平成28年度第1回ジェロントロジー研究会。

東京都 東京大学工学部8号館，2016年5月25日。

蔭山正子（講師）.

精神障害者の家族が受ける暴力.

北海道大学大学院医学系研究科精神医学分野勉強会.

北海道 北海道大学医学部附属病院, 2016年6月15日.

永田智子（講師）.

退院支援と医療機関における地域連携体制の構築の実際.

自治医科大学 地域看護管理方法Ⅰ.

東京都 東京大学医学部地域看護学教室, 2016年6月16日.

蔭山正子（講師）.

家族への暴力から見つめる精神医療と地域支援.

精神保健福祉セミナー.

NPO 法人地域精神医療ネットワーク, 神奈川県 ウィリング横浜, 2016年7月13日.

蔭山正子（講師）.

精神障がい者の暴力と家族.

練馬精神障害者家族会.

東京都 練馬区立区民・産業プラザココネリ, 2016年7月17日.

蔭山正子（講師）.

メンタルヘルスが気になる親への保健師による育児支援.

平成28年度第2回市川健康福祉センター（保健所）管内保健師業務連絡研究会.

千葉県 浦安市健康センター, 2016年7月25日.

藤崎万裕（パネリスト）.

科学コミュニケーターの現在地 ～科学コミュニケーターの養成のその後は？～.

JASC2015-16年度第4回定例会.

茨城県 つくば大学茗荷谷校舎, 2016年8月28日.

成瀬昂（講師）.

「地域包括ケアシステム」におけるデイサービスセンターの役割と機能を考える

「デイサービスの「これから」の役割を整理する」.

東京都高齢者福祉施設協議会センター分科会デイサービス分会

東京都 飯田橋セントラルプラザ 12階会議室, 2016年9月21日.

成瀬昂（講師）。

デイサービス職員として、明日、何をするかを決める会。

東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会 センター分科会デイサービス分科会。

東京都 飯田橋セントラルプラザ 12 階会議室，2016 年 11 月 18 日。

土屋瑠見子（非常勤講師）。

在宅看護方法論 2「移動が困難な人の援助」。

慈恵医大附属柏看護専門学校授業。

千葉県 慈恵柏看護専門学校，2016 年 12 月 14 日。

永田智子（講師）。

「退院支援・退院調整の実際について」。

南那須医師会退院支援・退院調整研修会。

栃木県 那須南病院，2017 年 2 月 28 日。

永田智子（講師）。

「退院支援の実践と評価」。

第 53 回大分県脳卒中懇話会。

大分県 全労済ソレイユ，2017 年 3 月 4 日。

成瀬昂（講師）。

地域包括ケアの現状。

浄土宗総合研究所「現代における老いと仏教」研究会。

東京都 明照会館，2017 年 3 月 16 日。

（8） その他

蔭山正子（TV 出演）。

高齢化し孤立する障害者と家族。

バリバラジャーナル，NHK E テレ，2016 年 5 月 1 日。

山本なつ紀，藤崎万裕。

The 4th International Global Network of Public Health Nursing conference (GNPHN 2016)

参加報告。

一般社団法人日本公衆衛生看護学会 HP. <http://plaza.umin.ac.jp/~JAPHN/?p=1537>.

角川由香, 永田智子.

The American Public Health Association' s 2016 Annual Meeting (APHA 2016) 参加報告.

一般社団法人日本公衆衛生看護学会 HP. <http://plaza.umin.ac.jp/~JAPHN/?p=1647>.

(9) 受賞

寺本千恵.

第 36 回日本看護科学学会総会 第 15 回学術論文奨励賞.

Cross-sectional study of social support and psychological distress among displaced earthquake survivors in Japan.

Japan Journal of Nursing Science. 12(4), 320-329, 2015.

第 36 回日本看護科学学会総会, 東京都 東京国際フォーラム, 2016 年 12 月 10 日-11 日.

岩本里織, 岡本玲子, 小出恵子, 西田真寿美, 生田由加利, 鈴木るり子, 野村美千江, 酒井陽子, 岸恵美子, 城島哲子, 草野恵美子, 齋藤美紀, 寺本千恵, 村嶋幸代.

平成 28 年度学術奨励賞 (優秀論文部門).

東日本大震災により被災した自治体職員の被災半年後の語りに見られた身体的精神的健康に影響する苦悩を生じた状況.

日本公衆衛生看護学会誌, 4(1), 21-31, 2015.

第 5 回日本公衆衛生看護学会学術集会, 宮城県 仙台国際センター, 2017 年 1 月 21 日-22 日.

(10) 国際交流

Kathy Magilvy 博士 (コロラド大学名誉教授) 滞在 (研究ミーティング) 2016 年 11 月 25 日-26 日.

3 研究活動

(1) 地域看護学勉強会

日程（毎週火曜日） 前期 2016/4/5～7/12 後期 2016/9/13～2017/3/7

教室員の研究計画および最新研究トピックのディスカッションを目的として行った。

参加者：永田，成瀬，蔭山（～7月），藤崎，寺本，土屋，山本，本田，松本，角川，川上，前田，茂，熊崎，城内，鈴木，中村。

教科書：なし（配布資料のみ）

前期：2016年4月5日～7月12日

月日	担当者	内容	話題提供
4月5日	永田・成瀬	オリエンテーション	—
4月12日	川上 松本	修論進捗 Journal & Critique	デイサービスについて
4月19日	角川 本田	修論進捗 Journal & Critique	4月研究会& ミーティング
4月26日	茂・前田 中村	修論進捗 修論計画	—
5月10日	中村・藤崎 熊崎・山本	Journal & Critique	—
	城内	修論計画	
5月17日	鈴木・松本 城内・本田	Journal & Critique	5月研究会講師紹介
5月24日	土屋・山本 鈴木	博論進捗 修論計画	—
5月31日	川上・茂 熊崎	修論進捗 修論計画	—
6月7日	前田・角川	修論進捗	GCL 紹介
6月14日	寺本・中村 松本	Journal & Critique 文献レビュー/博論計画	6月研究会講師紹介
6月21日	成瀬・鈴木 土屋・熊崎	Journal & Critique	—
6月28日	藤崎・城内	Journal & Critique	剽窃チェックソフト Turnitin について

7月5日	中村・熊崎 本田	修論計画 文献レビュー/博論計画	—
7月12日	鈴木・城内 寺本	修論計画 博論進捗	—

後期：2016年9月13日～2017年3月7日

月日	担当者	内容	話題提供
9月13日	中村・松本 熊崎・鈴木	Journal & Critique 実践的研究相談	—
9月20日	鈴木・本田 前田	Journal & Critique 修論進捗	—
9月27日	城内・山本 寺本	Journal & Critique 博論進捗	—
10月4日	熊崎・藤崎 土屋	Journal & Critique 博論進捗	Authorship と Authors' contribution の記述について
10月11日	城内・中村 山本	実践的研究相談 博論進捗	—
10月18日	藤崎 本田	研究紹介 博論進捗	—
10月25日	松本 角川	博論進捗 修論進捗	—
11月1日	城内 茂	修論計画 修論進捗	—
11月8日	熊崎 川上	修論計画 修論進捗	保健師教育評価の指 標について
11月15日	鈴木	修論計画	—
	永田・成瀬・藤崎・ 山本・本田・角川 熊崎・城内・鈴木・ 中村	学会報告会	
11月22日	中村 前田	修論計画 修論進捗	—

11月29日	武井・北野	卒論進捗	—
12月6日	角川・前田	修論初稿	—
12月13日	川上・茂	修論初稿	—
1月10日	川上・茂 角川・前田	修論発表予行	—
1月16日	川上・茂 角川・前田	修論発表予行	—
1月24日	熊崎・鈴木 城内・中村	実習報告・共有	—
	山本	博論進捗	
1月31日	北野・武井	卒論発表予行	—
2月7日	熊崎・中村 城内・鈴木	Journal & Critique	—
2月14日	松本 本田	Journal & Critique 博論進捗	—
2月21日	鈴木 熊崎	修論計画	—
2月28日	城内 中村	修論計画	—
3月7日	角川・前田 川上・茂	Journal & Critique	—

(2) 研究会

	日程	講師およびテーマ (敬称略)
第225回	2016年 4月22日	藤崎 万裕 (東京大学高齢社会総合研究機構 特任助教, 東京大学大学院医学系研究科地域看護学 (兼任)) 「訪問看護サービスの利用者毎に受け持ち訪問看護師が評価した、連携のしやすさと利用者へのケアにおける目標達成度との関連」
第226回	5月22日	江間 有沙 (東京大学教養教育高度化機構 特任講師) 「生活習慣病対策ゲームネゴシエート・バトル (ネゴバト) の可能性と課題」 上田 昌文 (NPO 法人市民科学研究室・代表理事) 「ネゴバトの活用を含む「健康まちづくり」事業の概要」
第227回	6月17日	康永 秀生 (東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻臨床疫学・経済学分野 教授) 「医療ビッグデータを用いた臨床疫学研究保健学・看護学への期待」
第228回	7月8日	赤木 匠 (人間・生活研究本部 社会保障戦略グループ主任研究員) 「地域医療構想策定とレセプト分析・調査研究の実際」
第229回	9月23日	岩崎 りほ (大分県立看護科学大学看護研究交流センター 助教) 齋藤 あや (東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻 地域看護学分野 博士課程 H27 修了生) 「博士学位取得論文の報告」
第230回	10月21日	杉本 隆 (東京大学大学院公共政策学連携研究部 特任研究員) 「横断調査の2次解析で原著論文を書く:工夫と限界」
第231回	11月18日	岡本 玲子 (大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻総合保健科学分野 総合ヘルスプロモーション科学講座 教授) 「公衆衛生看護技術の明確化と保健師の能力開発」
第232回	2017年 2月10日	五十嵐 歩 (東京大学高齢者在宅長期ケア看護学/緩和ケア看護分野 助教) 「地域高齢者を支えるコンビニエンスストアとの協働研究について」
第233回	3月10日	永田 智子 (東京大学大学院医学系研究科地域看護学分野 准教授) 「東京大学地域看護学教室での研究・教育活動を振り返って」

(3) 研究プロジェクト

永田智子，鷺見尚己，戸村ひかり，田口敦子，前田明里，角川由香。

平成 26-28 年度科学研究費助成事業 基盤研究 (B)。

外来受診患者の潜在的在宅ケアニーズの早期把握および対処方策の開発。

永田智子，成瀬昂，蔭山正子，飯坂真司，御子柴直子。

平成 28-29 年度科学研究費助成事業 挑戦的萌芽研究。

地理情報システムと Photovoice を用いた住民参加型地域診断手法の開発。

成瀬昂。

平成 26-28 年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 若手研究 (A)。

訪問看護師と周囲のチームワークが訪問看護ステーションの効率性に与える影響の評価。

蔭山正子，横山恵子。

平成 28-31 年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤研究 (C)。

精神障害者の長期的な育児支援プログラムの開発。

藤崎万裕。

平成 28-30 年度科学研究費助成事業 (科学研究費補助金 (研究活動スタート支援))。

2016 年 10 月 1 日～2018 年 3 月 31 日。

フレイル予防サポーターの参加動機による類型化と活動継続要因。

戸村ひかり，清水準一，永田智子，鈴木樹美。

平成 28-30 年度科学研究費助成事業 挑戦的萌芽研究。

看護系大学卒業時に求められる退院支援の実践能力を養成する為の教育プログラムの開発。

麻原きよみ，佐伯和子，大森純子，永田智子，鶉飼修。

平成 28-30 年度厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業。

地域特性に応じた保健活動推進ガイドラインの開発。

堀田聡子，山岸暁美，野口麻衣子，成瀬昂。

平成 28 年度厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業。

統合ケアを指向した効果的・効率的なサービスモデルに関する研究。

川上文子, 永田智子.

公益財団法人政策医療振興財団 平成 28 年度研究助成.

2016 年 6 月-2017 年 3 月.

行政保健師の能力と職務経験の関連.

山本なつ紀, 成瀬昂, 永田智子.

公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団 研究助成 2016 年度【前期】.

2016 年 7 月-2017 年 8 月.

訪問看護師が認識する事故・インシデント報告範囲/基準の構成要素と事故・インシデント報告行動の阻害要因について.

角川由香, 永田智子.

公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団 研究助成 2016 年度【前期】.

2016 年 7 月-2017 年 8 月.

退院支援看護師による継続支援の実態とその関連要因～急性期病院を退院する高齢者に焦点をあてて～.

山本なつ紀, 杉本隆, 藤崎万裕.

公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団 平成 28 年度研究助成 国内共同研究 (満 39 歳以下) .

2016 年 12 月-2017 年 11 月.

訪問看護師の事故・インシデント報告行動に関連する訪問看護事業所特性の明確化.

(4) 教室内勉強会

博士論文勉強会（2016年4月12日～2017年1月24日）

学位審査を控えた博士課程学生が集まることで、より客観的・批判的に博士学位論文を吟味し、論文内容のさらなる質の向上を目指して行った。

参加者：土屋，寺本，芦田（母性看護学・助産学教室）。

教科書・参考書他：

- ・ STROBE 声明
- ・ 博士学位審査にかかる書類（医学系研究科大学院係発行）
- ・ Nancy Burns, Suzan K. Grove. 黒田裕子他監訳. 看護研究入門—実施・評価・活用—. 東京 エルゼビア・ジャパン, 2009.
- ・ Douglas G. Altman. 木船義久他訳. 医学研究における実用統計学. 東京サイエンティスト社, 2007.

日程	内容	担当者
4月12日（火）	博士論文進捗	土屋
	博士論文進捗	寺本
4月27日（水）	博士論文進捗	土屋
	博士論文進捗	寺本
5月18日（水）	博士論文進捗	土屋
	博士論文進捗	寺本
6月1日（水）	博士論文進捗	土屋
	博士論文進捗	寺本
6月15日（水）	博士論文進捗	芦田
6月21日（火）	博士論文進捗	土屋
	博士論文進捗	寺本
7月7日（木）	博士論文進捗	土屋
	博士論文進捗	寺本
	博士論文進捗	芦田
7月26日（火）	博士論文進捗	土屋
	博士論文進捗	寺本
	博士論文進捗	芦田
8月10日（水）	博士論文進捗 題目届確認	土屋
	博士論文進捗 題目届確認	寺本
	博士論文進捗 題目届確認	芦田
8月29日（月）	博士論文進捗 題目届最終確認	土屋
	博士論文進捗 題目届最終確認	寺本
	博士論文進捗 題目届最終確認	芦田

9月13日(火)	博士論文進捗 博士論文進捗 博士論文進捗		土屋 寺本 芦田
9月29日(木)	博士論文進捗 博士論文進捗 博士論文進捗		土屋 寺本 芦田
10月14日(金)	博士論文進捗 博士論文進捗 博士論文進捗		土屋 寺本 芦田
10月28日(金)	博士論文進捗 博士論文進捗 博士論文進捗	論文全体確認 論文全体確認 論文全体確認	土屋 寺本 芦田
11月10日(木)	博士論文進捗 博士論文進捗 博士論文進捗		土屋 寺本 芦田
11月21日(月)	博士論文進捗 博士論文進捗 博士論文進捗		土屋 寺本 芦田
12月2日(金)	博士論文進捗 博士論文進捗 博士論文進捗	学位授与願等提出書類確認 学位授与願等提出書類確認 学位授与願等提出書類確認	土屋 寺本 芦田
12月8日(木)	学位授与願等提出書類最終確認 学位授与願等提出書類最終確認 学位授与願等提出書類最終確認	論文仮製本 論文仮製本 論文仮製本	土屋 寺本 芦田
12月16日(金)	博士論文進捗 博士論文進捗 博士論文進捗		土屋 寺本 芦田
2017年			
1月5日(木)	口頭試問学位審査会 口頭試問学位審査会	予行 予行	寺本 芦田
1月10日(火)	口頭試問学位審査会	予行	土屋
1月12日(木)	口頭試問学位審査会 口頭試問学位審査会	予行 予行	土屋 寺本
1月24日(火)	口頭試問学位審査会	予行	土屋

4 教育活動

(1) 学部講義

1) 地域看護学 4年前期 (2単位)

担当教員：永田智子・蔭山正子・成瀬昂・藤崎万裕／東京大学地域看護学教室
小川一枝／東京都医学総合研究所・難病医療専門員
木内恵美／文京区保健サービスセンター・保健師
村山亜矢子／コニカミノルタ株式会社八王子健康管理センター・
保健師

日程： 2016年4月11日～5月23日 月曜日 3,4限

内容： 地域看護学は地域で生活している個人，家族，特定集団を対象に、健康増進，疾病の予防と回復，日常生活や社会生活への適応を図るための支援方法を探求する学問である。そのための対象論と方法論について講義する。内容としては，地域看護の概念・機能，地域看護の発展過程，地域看護活動の対象・場の特性，地域看護診断の方法と地域看護活動の実際などである。

日程	時限	講義題目	担当
4月11日 (月)	3,4限	地域看護学総論、精神保健活動	永田、蔭山
4月18日 (月)	3,4限	成人保健活動	村山
4月25日 (月)	3,4限	難病支援	小川
5月2日 (月)	3,4限	精神保健活動	蔭山
5月9日 (月)	3,4限	地域看護と研究	成瀬
5月16日 (月)	3,4限	母子保健活動	木内
5月23日 (月)	3,4限	災害支援、地域看護学総括	永田

2) 在宅看護論 3年後期 (2単位)

担当教員：永田智子・成瀬昂・藤崎万裕／東京大学地域看護学教室
岩本大希／ウィル訪問看護ステーション江戸川
角田直枝／茨城県立中央病院、茨城県地域がんセンター

日程： 2016年9月29日～11月17日 木曜日 3,4限

内容： 在宅療養者を取りまく社会状況や保健医療福祉のしくみを理解すること。そのために、在宅療養者の生活や健康上の問題に対する個別的・家族的アプローチの方法、ケアプランの組み方、ケアの提供方法、ケアシステムなどに関する講義を行う。

日程	時限	講義題目	担当
9月29日 (木)	3,4限	訪問看護の対象者：個別事例（難病）	成瀬・藤崎
10月6日 (木)	3,4限	在宅看護論総論	永田
10月13日 (木)	3,4限	退院支援	永田
10月20日 (木)	3,4限	訪問看護の対象者：個別事例（小児）	成瀬・岩本
10月27日 (木)	3,4限	ケアマネジメント演習	成瀬
11月10日 (木)	3,4限	在宅ケアサービスの展開：経営・事業体	成瀬・藤崎
11月17日 (木)	3,4限	訪問看護の対象者：個別事例（終末期）	藤崎・角田

3) 生きることを支える科学：看護学の最先端

対象：駒場学生

期日：2016年6月9日

内容：まちづくりで健康を支える（成瀬）

4) 健康総合科学概論

対象：健康総合科学科 2年生

期日：2016年10月17日

内容：保健師と言う仕事とまちづくり（成瀬）

(2) 学部実習

[4年生] 在宅看護論実習

期間 : 2016年7月11日(月)～7月22日(金)

実習報告会 : 2016年7月22日(金)

実習施設 :

①退院支援部署(1日)

東京大学医学部附属病院・地域医療連携部 (5名)

三井記念病院・退院支援室 (2名)

②訪問看護ステーション(8日)

小石川医師会訪問看護ステーション (2名)

訪問看護ステーションけせら (2名)

上野訪問看護ステーション (2名)

浅草医師会訪問看護ステーション (1名)

(3) 大学院特論

1) 地域看護学特論 I

担当教員：永田智子・蔭山正子・成瀬昂・藤崎万裕／東京大学地域看護学教室
大森純子／東北大学大学院医学系研究科保健学専攻公衆衛生看護学
分野
小林小百合／東京工科大学医療保健学部看護学科高齢者看護学
田上豊／埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科

日程： 2016年6月7日～7月19日 火曜日 3,4限

内容： 地域看護学の理論・実践・研究について修士レベルの教科書を用いながら学ぶとともに、地域看護活動の方法論の一つである地域組織活動の理論と応用を学ぶ。

日程	時限	講義題目	担当
6月7日	(火) 3,4限	イントロダクション：地域看護学の概念と研究	永田
6月14日	(火) 3,4限	文献レビュー	永田
6月21日	(火) 3,4限	在宅ケアシステムの現状とこれまでの経緯 (歴史・研究)	田上
6月28日	(火) 3,4限	CBPR	大森
7月5日	(火) 3,4限	エスノグラフィー	小林
7月12日	(火) 3,4限	文献レビュー	永田
7月19日	(火) 3,4限	輪読・まとめ	永田

2) 地域看護学特論Ⅱ

担当教員：永田智子・成瀬昂・藤崎万裕／東京大学地域看護学教室

飯坂真司／淑徳大学看護栄養学部栄養学科

野口麻衣子／東京大学大学院高齢者在宅長期ケア看護学／緩和ケア看護学

御子柴直子／東京大学大学院高齢者在宅長期ケア看護学／緩和ケア看護学

宮澤仁／お茶の水女子大学 基幹研究員

日程： 2016年9月13日～11月1日 火曜日 3,4限

内容： 地域看護学のトピックス及び方法論について、講義と輪読を通して学ぶ。

日程	時限	講義題目	担当
9月13日 (火)	3,4限	退院支援研究の現状と課題	永田
9月20日 (火)	3,4限	尺度開発	御子柴
9月27日 (火)	3,4限	GIS	宮澤
10月4日 (火)	3,4限	介入研究・プログラム評価	成瀬
10月18日 (火)	3,4限	Mixed Method	藤崎
10月25日 (火)	3,4限	高齢者の介護予防研究	飯坂
11月1日 (火)	3,4限	グラウンデッド・セオリーアプローチ	野口

3) 支援技術論 I (保健師教育科目)

担当教員：永田智子・蔭山正子・成瀬昂・藤崎万裕／東京大学地域看護学教室
 荒木田美香子／国際医療福祉大学小田原保健医療学部看護学科
 有本梓／横浜市立大学大学院医学部看護学科地域看護学領域
 安齋由貴子／宮城大学看護学部

日程： 2016年4月7日～5月31日 火曜日 3,4限 (変則日時あり)

内容： 地域住民への個別指導・集団指導を行う際の知識と技術を習得することを目的とする。特に、対人支援技術(信頼関係の構築、家庭訪問、健康診査、健康相談、健康教育、ケースマネジメント、グループ支援)に焦点を当てる。

日程	時限	講義題目	担当
4月7日 (木)	1,2限	保健師によるグループ支援の技術(1)	蔭山
4月20日 (水)	3,4限	保健師によるスクリーニング技術： 乳幼児健康診査など	有本
4月26日 (火)	3,4限	保健サービスシステムの評価：演習	永田・蔭山
5月17日 (火)	3,4限	集団健康教育の理論と実践	荒木田
5月24日 (火)	3,4限	保健師による施策化・システム構築の基盤 となる概念と支援技術	安齋
5月25日 (水)	1,2限	保健師による個別支援技術： 家庭訪問、面接、電話など	有本
5月31日 (火)	3,4限	保健師によるグループ支援の技術(2)： 支援技術のまとめ	蔭山

4) 支援技術論Ⅱ（保健師教育科目）

担当教員：永田智子・蔭山正子・成瀬昂・藤崎万裕／東京大学地域看護学教室
 有本梓／横浜市立大学大学院医学部看護学科地域看護学領域
 安齋由貴子／宮城大学大学院看護学部看護学科
 大木幸子／杏林大学保健学部看護学科
 川本晃子／鶴見区こども家庭支援課こども家庭支援担当
 小西かおる／大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻総合ヘルスプロモーション科学講座
 錦戸典子／東海大学大学院健康科学研究科看護学専攻産業看護学

日程： 2016年5月25日～7月21日 木曜日 3,4限（変則日時あり）

内容： 地域住民への個別指導・集団指導を行う際の知識と技術を習得することを目的とする。具体的には、ライフステージ別（母子・成人・高齢者等）、健康課題別（難病・精神・感染症等）、集団別（障がい者・マイノリティ等）にみた健康問題の根拠法令、支援システム、具体的な活動を学ぶ。

日程	時限	講義題目	担当
5月25日（水）	3,4限	ライフステージに応じた保健師の支援技術：母子保健	有本
6月9日（木）	3,4限	健康課題に応じた保健師による支援技術：災害	安齋
6月22日（水）	1,2限	健康課題に応じた保健師による支援技術：感染症	大木
6月23日（木）	3,4限	ライフステージに応じた保健師の支援技術：高齢者保健	川本
6月30日（木）	3,4限	健康課題や特定集団への保健師の支援技術：難病	小西
7月4日（月）	1,2限	ライフステージに応じた保健師の支援技術：成人保健	錦戸
7月7日（木）	3,4限	健康課題に応じた保健師による支援技術：精神保健、障がい者	蔭山

5) 公衆衛生看護学 I (保健師教育科目)

担当教員：永田智子・蔭山正子・成瀬昂・藤崎万裕／東京大学地域看護学教室
 麻原きよみ／聖路加国際大学地域看護学
 五十嵐千代／東京工科大学医療保健学部看護学科・産業保健実践研究センター

日程： 2016年4月5日～5月26日 木曜日 1,2限 (変則日時あり)

内容： 公衆衛生看護学の歴史、世界の動向、基盤となる概念を学ぶ。コミュニティの健康課題を明確化する方策、および、課題解決に向けた活動方法について学ぶ。

日程	時限	講義題目	担当
4月5日 (火)	3,4限	公衆衛生看護学総論 地域診断の方法論(1)：参与観察・インタビュー	永田 蔭山
4月14日 (木)	1,2限	地域診断の方法論(2)：総論 活用ツール (GIS, Photovoice)	永田 成瀬
4月21日 (木)	1,2限	地域診断の方法論(3)：統計データ分析、 演習	永田・成瀬
4月28日 (木)	1,2限	地域診断の方法論(4)：エスノグラフィ の応用と参与観察	麻原
5月12日 (木)	1,2限	公衆衛生看護における社会的環境の影響	永田
5月19日 (木)	1,2限	公衆衛生看護における物質的・化学的環 境の影響	五十嵐
5月26日 (木)	1,2限	地域診断の方法論(5)：フィールド演習	永田

6) 公衆衛生看護学Ⅱ (保健師教育科目)

担当教員：永田智子・蔭山正子・成瀬昂・藤崎万裕／東京大学地域看護学教室
 麻原きよみ／聖路加国際大学地域看護学
 五十嵐千代／東京工科大学医療保健学部看護学科・産業保健実践研究センター

日程： 2016年6月2日～7月20日 水曜日 1,2限 (変則日時あり)

内容： 公衆衛生看護学の倫理、基盤となる概念を学ぶ。コミュニティの健康課題を明確化する方策、および、課題解決に向けた活動方法について学ぶ。

日程	時限	講義題目	担当
6月2日 (木)	1,2限	公衆衛生の基盤となる理論(1)：全般 ミネソタ Wheel 説明 地域診断の方法論(6)：演習	永田 藤崎
6月8日 (水)	1,2限	産業保健看護活動論(1)： 概要、組織アセスメント	五十嵐
6月15日 (水)	1,2限	地域診断の方法論(7)：演習	永田
6月29日 (水)	1,2限	産業保健看護活動論(2)： 個別支援の理論と実際	五十嵐
7月6日 (水)	1,2限	保健師活動における倫理	麻原
7月13日 (水)	1,2限	公衆衛生の基盤となる理論(2)： ミネソタ Wheel 発表 地域診断の方法論(8)：演習	永田
7月20日 (水)	1,2限	地域診断の方法論(9)：発表	永田

7) 行政看護学特論（保健師教育科目）

担当教員：永田智子・成瀬昂・藤崎万裕／東京大学地域看護学教室

大木幸子／杏林大学保健学部看護学科

小宮山恵美／東京都北区健康福祉部副参事 介護・医療連携推進担当

島内明文／東京大学大学院医学系研究科医療倫理学分野

深堀浩樹／東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科看護先進科学専攻

吉岡京子／東京医科大学医学部看護学科地域看護学

吉田修馬／東京大学大学院医学系研究科医療倫理学分野

日程： 2016年9月14日～10月26日 水曜日 1,2限

内容： 健康政策や公衆衛生看護実践に関わる倫理的問題を議論する能力を養うとともに、事業化・施策化やリーダーシップに関する実践的能力を養うことを目的とする。具体的には、専門的知識を学び、批判的思考力を養うため課題やディスカッションに取り組む。

日程	時限	講義題目	担当
9月14日 (水)	1,2限	公衆衛生看護と公共論	大木
9月21日 (水)	1,2限	公衆衛生看護における倫理：理論	吉田・島内
9月28日 (水)	1,2限	行政機関における健康政策：施策化、評価	吉岡
10月5日 (水)	1,2限	行政制度と保健師業務の関係	永田
10月12日 (水)	1,2限	行政保健師による事業化と施策化：実践	小宮山
10月19日 (水)	1,2限	行政保健師のリーダーシップと管理能力：理論	深堀
10月26日 (水)	1,2限	公衆衛生看護における倫理：演習	吉田・島内

(4) 大学院実習

1) 公衆衛生看護学実習Ⅰ

産業保健実習：2016年11月24日（木）

実習施設：コニカミノルタ（株） 健康管理センター

学校保健実習：2017年1月17日（火）

実習施設：東京大学教育学部附属中等教育学校

継続実習：公衆衛生看護学実習Ⅱ終了後

実習施設：文京区保健サービスセンター／台東区保健サービスセンタ

ー

2) 公衆衛生看護学実習Ⅱ

2016年11月28日（月）～12月22日（木）

実習施設：文京区保健サービスセンター／台東保健所等

実習報告会：2017年2月20日（月）／2月24日（金）

(5) 活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム
大学院講義

1) 高齢社会総合研究特論Ⅳ 高齢社会のケア・サポート・システム

2016年7月7日 高齢者に必要なケアマネジメント 担当：成瀬昂

2016年7月14日 高齢社会の地域連携と地域アセスメント 担当：永田
智子

(6) 卒業論文

北野綾香（指導教員：永田智子・成瀬昂）

通所介護事業所が利用者に提供するサービス内容の整理。

武井聡（指導教員：永田智子・成瀬昂）

居宅介護支援事業所の死亡終了者の実態。

(7) 修士論文

川上文子（指導教員：永田智子）

Association between work experience and public health nursing competencies among public health nurses working at local government.

茂 寿枝（指導教員：永田智子）

30 歳代常用労働者への定期健康診断後の保健指導—小規模事業所の取組の現状—.

角川由香（指導教員：永田智子）

Post-discharge support by discharge planning nurses for older adults at acute hospitals: A 30-day prospective study.

前田明里（指導教員：永田智子）

Observational points and practice by outpatient nurses to recognize outpatient's home care needs.

（8） 博士論文

寺本千恵（指導教員：永田智子）

大学病院における救急外来を受診後に帰宅した患者の救急外来再受診のパターンとその特徴.

土屋瑠見子（指導教員：永田智子）

理学療法士・作業療法士による退院後早期の再調整の実態把握とその軽減を目指したツール開発と試行.

5 学内での活動

(1) 委員会活動

永田智子

医学部教務委員	2015年4月～
医学部健康総合科学科 教育委員	2007年4月～
医学図書館運営ワーキンググループ メンバー	2013年4月～
東京大学リーディング大学院プログラム 「活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー 養成プログラム」 幹事	2013年10月～

成瀬昂

医学部健康総合科学科 進学生増委員会 委員	2012年4月～
医学部健康総合科学科 テキスト企画・変種委員会 委員	2015年7月～

(2) 看護系教室役割分担

病院連絡係担当	2016年4月～
---------	----------

(3) 教室内での役割分担

勉強会係	蔭山正子(～2016年9月)	永田智子(2016年10月～)		
	松本博成	茂寿枝	熊崎裕崇	
研究会係	藤崎万裕	山本なつ紀	角川由香	前田明里
	鈴木秀	中村友亮		
親睦会・PC係	成瀬昂	本田千可子	川上文子	城内愛

6 学会における活動

永田智子

BioScience Trends

Editor

2008年1月～

日本地域看護学会

理事

2009年8月～

査読委員

2009年8月～

編集委員会委員

2012年8月～

日本看護科学学会

英文誌編集委員会委員

2010年1月～

社員（代議員）

2015年2月～

日本在宅ケア学会

評議員

2012年4月～

編集委員会委員

2012年4月～

学会活動推進委員会委員

2015年4月～

日本民族衛生学会

編集委員会委員

2012年1月～

評議員

2014年1月～

日本公衆衛生看護学会

理事

2012年7月～

編集委員会委員

2015年4月～2016年6月

国際委員会委員長

2016年7月～

日本公衆衛生学会

評議員

2014年11月～

査読委員

2015年8月～

成瀬昂

日本看護科学学会

査読委員

2015年10月～

日本創傷治癒学会 日本地域看護学会

46回学術集会 実行委員

2016年12月9日～10日

蔭山正子

日本地域看護学会

査読委員 2015年4月～

日本公衆衛生看護学会

査読委員 2016年6月～

教育委員 2016年6月～

編集委員 2016年6月～

日本公衆衛生学会

査読委員 2015年4月～

公衆衛生看護のあり方に関する委員会 2015年4月～

藤崎万裕

第20回日本看護管理学会 特別実行委員 (パシフィコ横浜)

2016年8月19日～20日

第2回日本混合研究法学会 大会ボランティア

ポスターセッション座長 東邦大学 2016年8月27日～28日

7 社会的活動

永田智子

東京都退院支援強化研修研修企画委員会
委員

2013年9月～

茨城県看護協会

退院調整等マネジメント推進協議会 副委員長

2016年10月～

蔭山正子

精神障害者家族のピアサポート推進事業
家族学習会企画プロジェクト委員会

2016年4月～

全国保健師教育機関協議会

教員研修委員会

2016年6月～

藤崎万裕

東京都文京区

介護保険認定審査会 認定審査委員

2013年4月～2017年3月

8 教室日誌

2016年	
4月8日	ウェルカムランチ（研究室）
7月12日	納涼会（115教室）
7月19日	夏の大掃除
11月25日-26日	コロラド大学教授 Kathy Magilvy 先生 来日
12月21日	蔭山先生感謝会&忘年会（本郷「和たん酒みやび」）
12月26日	年末大掃除
2017年	
3月22日	送別会（本郷「翔山亭 本郷店」）
3月31日	年度末大掃除

9 教室員名簿(2016年度)

准教授	永田智子			
非常勤講師	麻原きよみ 大木幸子	有本梓 角田直枝	安斎由貴子 田上豊	五十嵐千代 吉岡京子
講師	成瀬昂(2016年7月～)			
助教	成瀬昂(～2016年6月)		蔭山正子(～2016年8月)	
特任助教	藤崎万裕			
事務員	堀美奈子	山口千鶴子	竹田由美	
大学院生(博士課程)	島村珠枝 本田千可子	寺本千恵 松本博成	土屋瑠見子	山本なつ紀
大学院生(修士課程)	川上文子 熊崎裕崇 永見悠加里(休学中)	茂寿枝 城内愛	角川由香 鈴木秀	前田明里 中村友亮
卒論生	北野綾香	武井聡		
客員研究員	秋山直美 鷺見尚己 横山由美	大島浩子 田口敦子	栞原雄樹 戸村ひかり	小林小百合 服部真理子
教室研究生	石川英里 鈴木樹美 廣田真由美 水井翠	稲垣安沙 関根綾希子 堀越直子 柳瀬裕貴	岩崎りほ 野海直子 松下はるゑ 山居優子	国井由生子 馬場千恵 松永篤志 吉羽久美